

第3回 徳島県海岸保全基本計画（改定）検討会
議事概要

【日 時】令和8年8月28日（金） 15:00～16:30

【場 所】徳島県庁9階 901会議室

【検討会委員】

氏 名	役 職	専門分野	出欠
大久保 夏希	一般財団法人 徳島県観光協会	観光	対面
鎌田 磨人	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授	植物生態学	オンライン
河口 洋一	新潟大学佐渡自然共生科学センター 教授	河川生態学	オンライン
木村 悠	一般社団法人 MUGI OCEAN ACADEMY	海岸利用 (環境)	対面
久米 順二	徳島県漁業協同組合連合会 会長	漁業	代理出席
中野 晋	徳島大学名誉教授 ニタコンサルタント株式会社 顧問	地域防災学 沿岸域工学	対面
端村 欣示	徳島小松島港運協会 会長	海岸利用	対面
町田 哲子	徳島県商工会議所女性会連合会 副会長	商業	対面
武藤 裕則	徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授	河川工学	—
山中 亮一	徳島大学環境防災研究センター 准教授	海岸工学	対面

【資料】

- ・ 議事次第
- ・ 委員名簿（出席者名簿）
- ・ 配席図
- ・ 徳島県海岸保全基本計画（改定）検討会設置要綱

資料1 第2回検討会及びパブリックコメントにおける意見と対応について

資料2 徳島県海岸保全基本計画の改定案について

参考資料 讃岐阿波沿岸 徳島県海岸保全基本計画（改定案）

参考資料 紀伊水道西沿岸 徳島県海岸保全基本計画（改定案）

参考資料 海部灘沿岸 徳島県海岸保全基本計画（改定案）

1. 開 会

(1) あいさつ【谷川 県土整備部次長】

近年、世界に目を向けると、欧州・北米での猛暑や大規模な山火事、アジア諸国での記録的な豪雨など、深刻な被害が報告されている。我が国においても、6月初旬に本県をはじめ太平洋側に大雨をもたらした台風や、8月中旬に関東から日本海へと抜けた台風など、これまでの常識をくつがえす発生時期や進路で発生・進行する台風に見舞われており、まさに、気候変動の脅威を肌で感じている。

こうした中、約 400 kmに及ぶ多様で長い海岸線を有する本県においても、台風の大規模化や高潮の激甚化、南海トラフ巨大地震による津波など、複合的な脅威から県民の命や財産を守るため海岸保全対策をより一層強固なものへと引き上げていかなければならない。

今回の検討会では、前回頂いたご意見やパブリックコメントを踏まえた「改定案」のとりまとめに向けご審議いただきたい。

(2) 出席委員紹介

【事務局】委員紹介（委員名簿参照）

一般財団法人 徳島県観光協会 畠中委員から大久保委員に変更

2. 議 事

【中野会長】

先ほど事務局からあいさつがあったとおり、地球温暖化の影響が顕著になってきた。防災対策、海岸利用、水産業も影響を大きく受けていると実感している。徳島県海岸保全基本計画（改定案）についてご意見をお願いします。

(1) 第2回検討会及びパブリックコメントにおける意見と対応について（資料1）

「1. 第2回検討会における意見と対応」「2. パブリックコメントにおける意見と対応」について

【中野会長】

第2回検討会において3件の意見、パブリックコメントにおいて5件の意見があり、それらに対しての対応の説明があった。御意見があればお願いします。

会場やオンラインでも意見がないようであるため、次の議題に移る。

(2) 徳島県海岸保全基本計画の改定案について

「1. 現在の海岸保全基本計画の変遷」「2. 計画改定の背景」「3. これまでの取組」「4. 主な改定内容」「5. 施設整備方針（案）」「6. スケジュール」

【中野会長】

事務局からの説明について意見はあるか。

【山中委員】

長く検討を行い、充実した内容になったのではないかと考える。

資料2のP-15の「ブルーカーボン」の記載についてであるが、ブルーカーボンとは「CO2を海が吸収し、埋没して戻ってこない。要するに固定化されること。」と理解しているが、ここでは「ブルーカーボンが、海洋環境改善などの多面的効果を有する」と書かれており、言葉の意味と記載内容に齟齬があるので、修正した方がよい。

【中野会長】

本文ではどこになるか。

【事務局】

讃岐阿波では P-21 である。

【山中委員】

生態系サービスという言葉があり、私たちに恵みを与えているうちの 1 つがブルーカーボンである。生態系サービスとブルーカーボンが交錯していると思った。

【中野会長】

どのような表現が良いかの意見はあるか。

【山中委員】

「海草・海藻の藻場や干潟等の保全・再生等に努めることで、ブルーカーボンの吸収源としての機能や海洋環境改善といった多面的効果の保全・創出に、他部局と連携のうえに取り組む。」というような方向性が良い。ブルーカーボンのみとなると環境の単一機能だけを強化するという方向性となる。CO2 内部貯蔵の多い植物だけを誘導することとなり、対策としては偏ることとなるので、そのようにならない文言を考えていただきたい。

【中野会長】

今のご意見を参考に修正されたい。

【山中委員】

今回が、改定版を発行するまでの最終の会議のようなので、その視点から述べる。

「気候変動を考慮する」ことを新たに加え、今回、計画を改定することとしたのであるが、これまでの議論を通して、どこが改定されたかがわかりづらい。一般の方がわかるような「概要版」というか「パンフレット」のようなものがあれば良いと思う。

そこには、「何が前提条件として変わり、県の対策としてこのような変更を行った」ということをわかりやすく示してほしい。

私は前段の「技術検討会」からお手伝いしている。結果として「海面上昇」が大きなファクターだという結論であるが、「海面上昇」を取り上げた意図が伝わっていないと感じている。海面上昇とは、安定して水位が上昇し、広域的に長期的に同時に影響が続く、広域災害であるということ。一般的な災害であれば短期間で終わるが、「海面上昇」はずっと影響が続くということであり、これが対策実施のトリガーとなっている。「水準が変わったから改定する」という単純なことだけでなく、なぜ水準を変えなければならなかったのか、それはどのような意味を持つのかについて、わかりやすく説明してほしい。

単に「(避難時間を) 45 分に変えました」「設計を変えました」ではなく、新たなインフラ投資をするという大きな出来事を行うので、最適化、すなわち低コストで役立つものを造るという考え方を示してほしい。「45 分間に設定」、つまりいきなり最高水準の物を造れないので、まずは「45 分」で物を造る、最適化を目標に工夫して行っていることを県はアピールしてほしい。

避難時間を「35 分」から「45 分」に変えることは、各所で「良いことをやっている」と評価されていると聞いている。

今後、外力の想定が変わった場合に、計画の改定を待たずに動ける体制もおそらくできるようになっていると思うので、それも含んだ一般的な方に向けたものを作してほしい。

讃岐阿波の P-14 に争点となる国総研の資料を入れていただいたが、最初に設定した目標に向かって対応する（事前適応策）より、状況が変わった時に少しずつ対応する（順応的適応策）方が投資効果は高く、結果的にコストは安くなるということが土木学会で示されている。柔軟にやっていくことを示していただきたい。

かなり工夫して作られた海岸保全基本計画なので、更に県民にわかりやすいように仕上げていただきたく、最後の仕事を願う。

【中野会長】

県はパンフレット、リーフレットのような物を作成することを考えているか。

【事務局】

パンフレットの更新は予定していたが、御意見を頂いたので、一枚物のリーフレットの作成を検討する。

【中野会長】

リーフレットの作成に当たっては、防護水準の設定でかなり明確なものを算出しているため、数値的なものを入れておいたほうが良いかもしれない。「技術検討会」では示したことであるが、「海岸保全基本計画」の中に含まれていない内容もあるので、検討願います。また、「45 分」の考え方、「2100 年」と「2050 年」の考え方の違いによる水準の違いが理解しづらいので簡単にわかるような物がよいかもしれない。建設的な意見を頂き、ありがとうございました。

最終確認の段階なので、文言・表現の指摘でも良い。

他に意見はないか。

【中野会長】

細かなところで、私から 1 点あるので確認したい。

資料 P-22 の「⑥利用面の評価基準」の「配慮」の「利用配慮要素が存在する海岸であり、整備にあたっては、これらの利用機能へ支障を及ぼさないほどの配慮が必要である。」について、「ほどの」は必要か。「ほどの」の意味はあるのか。

【事務局】

意図して入れたものではない。

【中野会長】

どちらが良いか検討いただきたい。本質的な問題ではない。

河口委員、いかがか。

【河口委員】

いろいろな意見はあったが、全体的にはわかりやすい内容になったと思う。本質的ではないが、会議の中でアオリイカ保全の取組の話があったが、このような取組が徳島にあるのは知らなかった。他の四国や和歌山でアオリイカ釣りは流行っていて、漁業者とのトラブルもあると聞いていた。

徳島では、地域住民と一緒に取り組みながら、海岸や漁港の利用を考える枠組みができつつあるのかと思った。ハード面を担当する県担当部局の水産部署であろうか、そこと活動している方たちが意見交換して、いろいろな対策を考えていただければよいのかと思う。

【中野会長】

このように小学生が参画し、海に関心を持っていただくことは、教育委員会も環境学習の1つとして取り組まれているので、紹介いただくことはありがたい。

木村委員、いかがか。

【木村委員】

パブコメの環境についての意見に関することだが、日和佐の方と意見交換した際、ウミガメの赤ちゃんは光に向かう習性があり、堤防建設で照明が付くと、海ではなく、明るい陸へ向かうとの話があった。ウミガメの産卵場所となっている海岸では特に、照明について配慮が必要であるとする。

【中野会長】

堤防建設で照明が付くと、孵化したウミガメが照明の方に寄せられることがあるとのことであるが、河口委員、コメントはあるか。

【河口委員】

その通りで、十分な配慮が必要だと思う。

【中野会長】

日和佐の大浜海岸では照明の工夫を行っていると聞いているが、それでもまだまだ十分ではないようである。

観光についてはないか。

【大久保委員】

パブコメの意見についてであるが、案内板のやさしい日本語表記に加えて、海水浴場以外で泳ぐことによる事故を防ぐため、「ここ入ることはできません」のような、外国人にもわかる表記をお願いする。

【事務局】

資料に載せている案内板の例では、日本語以外はベトナム語やインドネシア語である。近くに水産加工場があり、そこで働いている外国人技能者の半数がベトナムやインドネシアの方ということでそのようにしている。地域によって表記方法は異なると思う。例えば、子供が多い所では、泳いでは危険な場所であることが一目でわかるようにすることが必要。わかりやすい案内板の取組は計画に追記したので、今後も検討を進めていく。

【中野会長】

他県の海岸の避難対策と比べて、残念ながら徳島県はそれほど進んでいるとは思えない。高知県の夜須海岸（ヤ・シィパーク）は避難対策や案内もしっかりしている、和歌山県も災害時における避難の誘導方法も丁寧に行っている。徳島県は遅れていると感じる。

徳島県が先進県になるように、計画作りで終わらずに積極的に取り組んでほしい。

他に意見はないか。

【町田委員】

一枚物のリーフレットを作るという話であるが、一般人ではこの資料でも理解が難しい状況である。避難時間が「35分」から「45分」に変わったということであるが、要配慮者であれば「10分延びたので嬉しい」、普通の人ならば「10分も延びたのか」という誤解を生む可能性がある。避難の大切さが伝わるようなリーフレットにしてほしい。

【中野会長】

なかなか責任重大であるが、必要な情報を簡潔にわかり易く1枚のリーフレットにまとめたいよう、お願いします。

【端村委員】

直接海に面する所で仕事をしている。港における過去の大きな災害である阪神大震災はハードの被害は壊滅的であった。東日本大震災では、ハードも人的にも大きな被害があった。港で働く我々は、海に一番近い所で作業をするので、最初に被害を受ける。400 kmに及ぶ海岸線において、L1 津波に対するハード整備は大変であると思う。自分たちの安全を守るのは、最終的には「情報をいただきすぐに避難すること」に限ると考えている。

避難タワーの整備も行っている。

世界でも、これまでは考えられないことが起こっている、この対策を実施するに行政は大変だと思うが、頑張りたい。

【中野会長】

港の安全は大変重要である。被害を受けた後の復旧・復興も大事である。港湾BCPの検討を進めているが、実効性確保が重要である。

【住友委員代理】

前回検討会でも発言したが、漁業振興にも配慮いただきたい。防災・環境保全・漁業を中心とした産業やマリンレジャーなどと調和のとれた計画になるよう、引き続き配慮いただきたい。

【中野会長】

水産協調型海岸構造物の検討が行われた時期もあったが、なかなか難しく結果進んでいないのが実情である。海岸保全対策の中でも水産資源を増やせる工夫がほしい。それ以上に温暖化の進行が早すぎて対応が非常に難しい。よいアイデアが生まれると良いと考える。

【山中委員】

本文に体裁を整える必要がある箇所がありそうなので、対応を検討していただきたい。

【事務局】

承知した。

【中野会長】

せっかくの機会なので、他に意見はないか。

意見が出尽くしたようなので、(1)(2)の議事は終わる。

皆さんの意見をしっかりと反映していただき、計画を仕上げていただきたい。

(3) その他

【事務局】

今回ご審議いただいた計画に基づき、今後、実際に施設整備の設計等を進めていくことになるが、それに伴って生じる「海岸保全区域」の変更手続きについて、区域の大幅な変更や追加など、専門的なご意見が必要と思われる場合に限り、有識者の方に相談させていただく形を取りたいと考えている。その際はどうぞよろしくお願いする。

3. 閉 会

(1) あいさつ【鈴木 農林水産部長】

計画は作って終わりではなく、計画の意図を住民にわかりやすく知らせ避難につなげることが大切である。計画についてはスケジュール通りに進めていくが今後とも引き続きどうぞよろしくお願いする。本日はありがとうございました。

以上